

平成25年4－6月期の四半期別GDP速報の概要

経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課
岡崎 勇至

8月12日に公表した平成25年4－6月期四半期別GDP速報(1次QE)では、実質GDP成長率は0.6%(年率2.6%)、名目GDP成長率は0.7%(年率2.9%)と、3四半期連続のプラスとなった。以下では今回QEの概要について解説する。詳細は国民経済計算のウェブサイトをご覧いただきたい(http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou_top.html)。

なお、以下の計数は、特段の断りがない限り、実質値の季節調整済前期比、カッコ内は実質GDP成長率への寄与度を示す。

1. 民間需要の動向

民間最終消費支出は+0.8%(+0.5%)と、3四半期連続のプラスとなっており、GDP成長率を最も押し上げた。耐久財(エアコン、宝石・時計等)、半耐久財(衣服等)、非耐久財(清涼飲料等)、サービス(金融サービス、飲食、宿泊等)のいずれも、プラスに寄与した。

民間住宅は▲0.2%(▲0.0%)と、5四半期ぶりのマイナスとなった。QEでは基礎統計である着工ベースの工事費予定額を出来高ベースに転換している。4－6月期の工事費予定額は高い伸びであったが、1－3月の伸びが鈍化していたため、名目で伸びが鈍化した(前期比+0.9%)とみられる。加えて、資材価格の上昇等を背景にデフレーターが上昇しており、実質ではマイナスとなった。

民間企業設備は▲0.1%(▲0.0%)と、減少率は縮小しているものの6四半期連続のマイナスとなった。船舶や自動車等が減少に寄与したとみられる。

民間在庫品増加(寄与度)は▲0.3%と、GDP成長率を最も押し下げた。主として仕掛品在庫の減少によるものである。なお、仕掛品在庫及び原材料在庫については、1次QEでは基礎統計である「法人企業統計」が利用できないことから統計的な補外推計を行っている。

2. 公的需要の動向

政府最終消費支出は+0.8%(+0.2%)と、13四半期連続のプラスとなった。医療費及び介護費(現物社会給付)の増加が傾向的に続いている。

公的固定資本形成は+1.8%(+0.1%)と、6四半期連続のプラスとなった。4－6月期の公共工事請負金額の動きを見ると、東北地方を含め全国的に増加している。

公的在庫品増加(寄与度)は+0.0%と、横ばいであった。

3. 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出は+3.0%(+0.4%)と、2四半期連続のプラスとなった。自動車や旅行等の輸出が増加に寄与したとみられる。財貨・サービスの輸入も+1.5%(▲0.3%)と、2四半期連続のプラスとなった。原油・天然ガス、石炭、衣服等の輸入が増加に寄与したとみられる。輸出の伸びが輸入の伸びを上回ったことから、純輸出の実質GDP成長率に対する寄与度は0.2%のプラスとなった。

4. デフレーターの動向

GDPデフレーター(前年同期比)は▲0.3%と、前期の▲1.1%と比べマイナス幅が縮小した。内需デフレーターが▲0.1%と前期(▲0.8%)から下落率を縮小させたことが寄与した。また、GDPデフレーター(季節調整済前期比)は+0.1%と3四半期ぶりの上昇となった。輸出デフレーターの上昇等から外需デフレーターがプラスに寄与している。

5. GNI(国民総所得)の動向

GNIは実質、名目ともに+1.4%と、3四半期連続のプラスとなった。海外からの純所得の増加がGNIを押し上げた(寄与度は実質、名目ともに0.7%)。

なお、平成25年4－6月期2次QEの公表は、9月9日(月)を予定している。

岡崎 勇至(おかざき たけし)